

ES/1 NEO

MFシリーズ

V05L22R1

Release News Letter

IBMシステム

目次

【お知らせ】

ES/1 NEO MFシリーズのサポートについて
PC製品 サポート終了のお知らせ

【HOST】

資源使用量比較一覧	
リリースニュースレター機能一覧 プロセッサ別	… 1
リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別	… 2
MF-ADVISOR	… 3
MF-MAGIC	… 8
MF-DB2	… 10
MF-支援ライブラリー	… 14
MF-eASSIST	… 16

【PC】

リリースニュースレター機能一覧 プログラム別	… 23
リリースニュースレター機能一覧 カテゴリ分類別	… 24
Performance Navigator	… 25

 株式会社 アイ・アイ・エム

本リリースニュースレターは、V05L22R1 のリリース内容をまとめたものです。過去のリリース内容につきましては、プロダクトメディア(x:¥Rnl)内のレターをご参照ください。

改版履歴

日付	版数	内容
2024/2/1	1	V05L22R1 リリース

ES/1 NEO MFシリーズのサポートについて

各バージョンの通常サポート期間はリリースより 30 ヶ月間です。

バージョンはバージョン、レベル、リビジョンからなり、レベルを基準とします。後継リビジョンのリリースに伴い、旧リビジョンのサポートは延長されます。



図. 製品ライフサイクルのイメージ

<バージョン(バージョン・レベル・リビジョン)の確認方法>

ES/1 実行ログにて確認できます。

例) V05L21R3 の場合

V 0 5 L 2 x R x

バージョン レベル リビジョン

```
LICENSEE ----- TRIAL USER
EXPIRATION DATE ----- 2024/4/30
VERSION/LEVEL/REVISION --- 05. 22. 01
```

<今後のサポート予定>

今後のサポート期間について、お知らせします。

バージョン	リリース時期	サポート終了予定時期
V05L22R1	2024年2月	2026年8月31日
V05L21R3	2023年2月	2025年8月31日
V05L21R2	2022年2月	2025年8月31日
V05L21R1	2021年10月	2025年8月31日

<通常サポート中とサポート終了後の違い>

サポート終了後のバージョンも継続してご利用いただけます。

但し、不具合に対応した修正パッチは、最新リリースまたはサポート期間中のバージョンに対してのみの提供となります。サポート終了後のバージョンをご利用中に発生した不具合の対応については、原則として最新バージョンに対応した修正パッチを提供させていただきます。

	サポート期間中	サポート終了後
当該バージョンの継続使用	可	可
製品の使用方法に関するご質問	可	可
不具合発生時の調査	可	可※
不具合修正パッチの提供	可	不可

※ナレッジベースでの調査となります。

<バージョンアップのお願い>

通常サポート期間を終了したバージョンについては、限定的なサポートのみの提供となります。最新バージョンへのバージョンアップのご検討をお願いいたします。

PC製品 サポート終了のお知らせ

現在、MF-eASSIST でサポートしています次のオペレーティング・システム、アプリケーションを、下記の期日でサポート終了とさせていただきます予定です。

<サポート終了オペレーティング・システム>

Microsoft® Windows® Server 2012	サポート終了時期：2024年10月末
Microsoft® Windows® Server 2012 R2	サポート終了時期：2024年10月末

<サポート終了アプリケーション>

Microsoft® Excel2013 / Word2013	サポート終了時期：2024年4月末
.NET Framework 4.5.2	

V05L22R1 では、MF-eASSIST の対象環境は次の通りとなります。

<オペレーティング・システム>

Microsoft® Windows® Server 2012 (2024年10月末まで)
Microsoft® Windows® Server 2012 R2 (2024年10月末まで)
Microsoft® Windows® 10
Microsoft® Windows® Server 2016
Microsoft® Windows® Server 2019
Microsoft® Windows® Server 2022
Microsoft® Windows® 11

<アプリケーション>

Microsoft® Excel2013 / Word2013 (2024年4月末まで)
Microsoft® Excel2016 / Word2016
Microsoft® Excel2019 / Word2019
Microsoft® Excel2021 / Word2021
Microsoft® 365 Apps (Office®365)

Microsoft Edge

Google Chrome

.NET Framework 4.6.2 以上

ES/1 NEO MFシリーズ V05L22R1 資源使用量比較一覧

本資料は、ES/1 NEO MFシリーズ V05L22R1 と、以前のリリース (V05L21R3) との資源使用量比較一覧です。
各項目の意味は以下の通りです。

CPU	以前のリリースと比較し、CPU時間が1割以上増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。
STG	以前のリリースと比較し、使用仮想記憶域が増加した量を示します。 この結果は、入力されるデータには関係ありません。 以前のリリースと比較し、上記本体の増分以上に使用仮想記憶域が増加することがある場合、●としています。 この結果は、入力されるデータにより異なります。
本体	
データ	

		V05L21R3 vs V05L22R1			
		CPU	STG		
			本体 (KB)	データ	
MF-ADVISOR	CPECNVRT	—	4	—	
	CPEPRT00	—	0	—	
	CMOSPRT0	—	0	—	
	HIB1CHK0	—	0	—	
	CPEREG00	—	0	—	
	SMFPRT00	—	0	—	
	CPEDSN00	—	0	—	
	RAIDPRT0	—	0	—	
	RAIDCNFO	—	0	—	
	VOLLST00	●	0	—	
CPEMQS00	—	0	—		
MF-MAGIC	CPEDBAMS	—	0	—	
	BOXSYS00	—	0	—	
	BOXWLC00	—	0	—	
MF-SCOPE	JOBANLST	●	0	—	
	JOBMONTH	●	0	—	
	JOBDTL10	—	0	—	
	AUDITPRT	—	0	—	
	AUDITMON	—	0	—	
	PNAVIADT	—	0	—	
MF-PREDICT	PRDIOS00	—	0	—	
	CPEDSN00	—	0	—	
	CPEREG00	—	0	—	
MF-AUDIT	AUDITPRT	—	0	—	
	DSNGSV00	—	0	—	
	AUDITMON	—	0	—	
	PNAVIADT	—	0	—	
MFシリーズ 支援ライブラリ	CPEDASD0	—	0	—	
	PAGPRT00	—	0	—	
	CPEVOLGP	—	0	—	
	CPEAPE00	—	0	—	
	CPEVTS00	—	0	—	
	CPEVSM00	—	0	—	
	DSNGSV00	—	0	—	
	TSSGSV00	—	0	—	
	CPETS700	—	0	—	
	JOBDSNCV	—	0	—	
	VOLCHK00	—	0	—	
	MF-eASSIST	PNAVICEC	●	0	—
		PNAVJOB0	—	0	—
PNAVJOB1		●	0	—	
PNAVIVSP		—	0	—	
PNAVIIMS		—	0	—	
PNAVIMSL		—	0	—	
PNAVIMSF		—	0	—	
PNAVICS		—	0	—	
PNAVIVTS		—	0	—	
PNAVIVSM		—	0	—	
PNAVIB2		●	0	—	
PNAVIADT		—	0	—	
PNAVTS70		●	0	—	
PNCICSST		—	0	—	
PNAVISRM	—	0	—		
MF-ZVM	ZVMPRT00	—	0	—	
	ZVMGSV00	—	0	—	
MF-WebSphere	CPEWAS00	—	0	—	
MF-DB2	CPEDB200	—	4	—	
	DB2TRC00	—	0	—	
MF-CICS	CICSPRT0	—	0	—	
	CICSTRC0	—	0	—	

※本体の使用仮想記憶域の増加が大きい場合、該当の箇所の色を付けて表示します。

例.	MF-ADVISOR	CPEPRT00	—	124	—
		CMOSPRT0	—	4	—

注意：(1) 本資料は弊社環境 (IBM環境) での結果に基づいています。環境により異なる場合がありますので、参考資料としてください。
(2) 実行時に仮想記憶領域不足が発生する場合は、OVER16機能をご使用ください。

【OVER16機能 指定方法】 実行するプロセッサのJCLに次のような指定を追加してください。
REGIONサイズの指定は、お客様の環境に応じて変更してください。

//SHELL EXEC PGM=CPESHELL, REGION=1024M, PARM=PARM	<=追加・変更
//SYSPRINT DD SYSOUT=*	
//SYSUDUMP DD SYSOUT=*	
//SYSUT1 DD UNIT=SYSDA, SPACE=(TRK, (10, 5))	
//CPEPARM DD *	<=追加
OVER16=SYMBOL	<=追加
OSTYPE=#OSTYPE	<=追加

OVER16機能の詳細につきましては「ES/1 NEO MFシリーズ 使用者の手引き 共通編 (IBM / 富士通 / 日立システム)」
'3.3.2 OVER16機能' をご参照ください。

【HOST】機能一覧 プロセッサ別

既存プロセッサ

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-ADVISOR	CPECNVRT	拡張	1	TS7700 BVIRHSTVユーティリティに対応				●	TS7700シリーズ	3	522-101
	CPESHELL	拡張	2	新しい平均スロット数項目のサポート					z/OS V2R5以降	4	522-104
		拡張	3	新しい分割レコード識別フラグのサポート					z/OS V2R5以降	4	522-105
		不具合	4	SMFレコードタイプ30の分割レコード処理に誤り					分割レコード	4	522-106
		不具合	5	SMFレコードタイプ70処理時にABEND 0CFが発生						5	522-107
	CMOSPRTO	拡張	6	暗号化コプロセッサCEX8Cの対応					z/OS V2R5以降	6	522-108
	VOLLST00	不具合	7	特定ボリュームのデータセット指定が正しく機能しない						7	522-109
MF-MAGIC	CPEDBAMS	不具合	8	インターバル変更後の数値に誤り		●				8	522-112
	BOXWLC00	不具合	9	配列インデックスエラー						9	522-113
MF-DB2	CPEDB200	拡張	10	1分未満のSMFレコードへの対応				●	DB2 V12.1以降	10	522-114
		拡張	11	OUTDRTMの指定に1分を追加					DB2 V12.1以降	11	522-115
		拡張	12	DB2 V13.1のサポート					DB2 V13.1以降	12	522-116
	DB2TRC00	拡張	13	DB2 V13.1のサポート					DB2 V13.1以降	13	522-117
MF-支援ライブラリ	JOBDSNCV	拡張	14	VSAMボリュームデータセットをサポート				●	SMFレコードタイプ60,62,64	14	522-118
MF-eASSIST	PNAVICEC	拡張	15	CSA/EGSAのキー毎の使用量を出力					z/OS V2R5以降	16	522-120
		拡張	16	暗号化コプロセッサCEX8Cの対応					z/OS V2R5以降	17	522-121
	PNAVJOB1	拡張	17	新しい分割レコード識別フラグのサポート					z/OS V2R5以降	18	522-124
		不具合	18	SCOPE=NO指定時のSMFレコードタイプ30分割レコード処理に誤り					分割レコード	18	522-126
	PNAVIDB2	拡張	19	1分未満のSMFレコードへの対応					DB2 V12.1以降	19	522-127
		拡張	20	OUTDRTMの指定に1分を追加					DB2 V12.1以降	20	522-128
		拡張	21	DB2 V13.1のサポート					DB2 V13.1以降	21	522-129
	BOXWLC00	不具合	22	配列インデックスエラー						22	522-130

◇表項目の説明

- 非互換 : 新旧バージョン間で、JCLやパラメータを変更しないとES/1が動作しない場合に●が付きます
- 数値変更 : 本バージョンの適用により出力される値(数値/文字列)に変更がある場合に●が付きます
- 表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます
- スイッチ追加 : 新規スイッチが追加された場合に●が付きます
- 特記事項 : OSのバージョン、対象データなど環境が特定できる場合に明記します

【HOST】機能一覧 カテゴリ別

既存プロセッサ

拡張一覧

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-ADVISOR	CPECNVRT	拡張	1	TS7700 BVIRHSTVユーティリティに対応				●	TS7700シリーズ	3	522-101
	CPESHELL	拡張	2	新しい平均スロット数項目のサポート					z/OS V2R5以降	4	522-104
		拡張	3	新しい分割レコード識別フラグのサポート					z/OS V2R5以降	4	522-105
	CMOSPRTO	拡張	4	暗号化コプロセッサCEX8Cの対応					z/OS V2R5以降	6	522-108
MF-DB2	CPEDB200	拡張	5	1分未満のSMFレコードへの対応				●	DB2 V12.1以降	10	522-114
		拡張	6	OUTDRTMの指定に1分を追加					DB2 V12.1以降	11	522-115
		拡張	7	DB2 V13.1のサポート					DB2 V13.1以降	12	522-116
	DB2TRC00	拡張	8	DB2 V13.1のサポート					DB2 V13.1以降	13	522-117
MF-支援ライブラリ	JOBDSNCV	拡張	9	VSAMボリュームデータセットをサポート				●	SMFレコードタイプ60,62,64	14	522-118
MF-eASSIST	PNAVICEC	拡張	10	CSA/ECSAのキー毎の使用量を出力					z/OS V2R5以降	16	522-120
		拡張	11	暗号化コプロセッサCEX8Cの対応					z/OS V2R5以降	17	522-121
	PNAVJOB1	拡張	12	新しい分割レコード識別フラグのサポート					z/OS V2R5以降	18	522-124
	PNAVIDB2	拡張	13	1分未満のSMFレコードへの対応					DB2 V12.1以降	19	522-127
		拡張	14	OUTDRTMの指定に1分を追加					DB2 V12.1以降	20	522-128
拡張		15	DB2 V13.1のサポート					DB2 V13.1以降	21	522-129	

不具合一覧

プロダクト	プログラム プロセッサ	分類	項番	項目	非互換	数値 変更	表示 変更	スイッチ 追加	特記事項	参照 ページ	記事 番号
MF-ADVISOR	CPESHELL	不具合	1	SMFレコードタイプ30の分割レコード処理に誤り					分割レコード	4	522-106
		不具合	2	SMFレコードタイプ70処理時にABEND 0CFが発生						5	522-107
	VOLLST00	不具合	3	特定ボリュームのデータセット指定が正しく機能しない						7	522-109
MF-MAGIC	CPEDBAMS	不具合	4	インターバル変更後の数値に誤り		●				8	522-112
	BOXWLC00	不具合	5	配列インデックスエラー						9	522-113
MF-eASSIST	PNAVJOB1	不具合	6	SCOPE=NO指定時のSMFレコードタイプ30分割レコード処理に誤り					分割レコード	18	522-126
	BOXWLC00	不具合	7	配列インデックスエラー						22	522-130

◇表項目の説明

- 非互換 : 新旧バージョン間で、JCLやパラメータを変更しないとES/1が動作しない場合に●が付きます
- 数値変更 : 本バージョンの適用により出力される値(数値/文字列)に変更がある場合に●が付きます
- 表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます
- スイッチ追加 : 新規スイッチが追加された場合に●が付きます
- 特記事項 : OSのバージョン、対象データなど環境が特定できる場合に明記します

CPECNVRT

522-101. TS7700 BVIRHSTV ユーティリティに対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	●	TS7700 シリーズ

これまで ES/1 で処理できる TS7700 の統計データは SMF レコードタイプ 194 で出力されたデータのみでした。

本リリースでは TS7700 の BVIRHSTV ユーティリティを使用して可変長レコード形式で出力した統計情報を、ES/1 共通レコード形式タイプ 194 にコンバートできるようにしました。コンバートデータは CPETS700 プロセッサと PNAVTS70 プロセッサの入力にすることができます。

【追加制御文】

```
CONVERT TYPE=TS7700, SYSTEM=SSSS
```

【指定例】

可変長レコードを ES/1 共通レコード形式タイプ 194 に変換する。システム識別子は『TS77』にする。

```
//SYSIN DD *
CONVERT TYPE=TS7700, SYSTEM=TS77
```

CPESHELL

522-104. 新しい平均スロット数項目のサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R5 以降

ES/1 シンボルには平均スロット数を表す SLOTUSE シンボルがあります。従来、このシンボルには SMF レコードタイプ 75 の SMF75AVU(4 バイト)項目の値をセットしていました。z/OS V2R5 から同じ意味を持つ SMF75LVU(8 バイト)項目が追加された為、そちらをセットするようにしました。

<影響を受けるプロセッサ>

- ・ CMOSPRTO
- ・ CPEPRT00
- ・ CPEREG00
- ・ HIBICHKO
- ・ PNAVICEC
- ・ PAGPRT00

522-105. 新しい分割レコード識別フラグのサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R5 以降

SMF レコードタイプ 30 では次に続く残りセクション数などから分割レコードの識別をします。z/OS V2R5 から分割レコードに新規の識別フラグが追加されたので、そのフラグに対応しました。

522-106. SMF レコードタイプ 30 の分割レコード処理に誤り

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	分割レコード

【現象】

次の条件を満たす場合、CPESHELL の SCOPE 機能における識別処理を誤って、分割レコードではなく通常のレコードだと識別していました。

<発生条件>

- ・ SMF レコードタイプ 30 の分割レコードを入力
- ・ 分割レコードにおいて、EXCP セクション数がゼロで、他のセクション数がゼロより大きい

【原因】

分割レコードの処理に誤りがありました。

【対処】

EXCP セクション数以外に次の項目のセクション数も確認するようにロジックを修正しました。

[追加]

SMF30ARN	APPG/MVS 累積リソース・セクション数
SMF30DRN	APPG/MVS リソース・セクション数
SMF30MOS	マルチシステム・エンクレーブ・リモート・システム・データ・セクションの数
SMF300PM	z/OS UNIX プロセス・セクションの数
SMF30RMS	自動再始動管理セクションの数
SMF30UDS	使用度データ・セクションの数

522-107. SMF レコードタイプ 70 処理時に ABEND 0CF が発生

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

【現象】

次の条件を満たす場合、SMF レコードタイプ 70 の読み込み時に ABEND 0CF (浮動小数点除算例外) が発生していました。

<発生条件>

- ・ SMF レコードタイプ 70 を入力
- ・ データ収集中に CPU の再構成があった

【原因】

CPU の再構成が発生したインターバルのデータはデータ不正フラグが ON となります。このようなデータは処理対象外としていますが、その結果プロセッサ台数がゼロとなった為、CPU 使用率の計算において ABEND 0CF が発生していました。

【対処】

プロセッサ台数がゼロとなった場合には使用率の計算をしないように修正しました。

CMOSPRT0

522-108. 暗号化コプロセッサ CEX8C の対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R5 以降

z16 で追加された新しい暗号化コプロセッサの種別「CEX8C」に対応しました。該当するデータを含む場合、従来は次のレポートの TYPE 欄に” UNKNOWN” と表示していましたが、本リリースより「CEX8C」と表示します。

<対象レポート>

- ・ 暗号化機構使用状況レポート (SW25)

【暗号化機構使用状況レポート (SW25)】

```
(C) I I M CORP. 1987-2024      EXPERT SYSTEM / ONE      *** INTERVAL SUMMARY REPORT ***      CMOSPT0 55
PSW=SW25                      --- CRYPTOGRAPHIC HARDWARE ACTIVITY REPORT ---      VER=05 LVL=22

----- COPROCESSOR -----
YY/MM/DD HHMM #N TYPE ID RATE EXECTM UTIL KEYGEN
              (/SEC) (MS) (%) (/SEC)
24/01/01 0000 4 CEX8C ALL DATA ZERO
24/01/01 0030 4 CEX8C ALL DATA ZERO
24/01/01 0100 4 CEX8C ALL DATA ZERO
24/01/01 0101 4 CEX8C ALL DATA ZERO
24/01/01 0115 4 CEX8C ALL DATA ZERO
```

VOLLST00

522-109. 特定ボリュームのデータセット指定が正しく機能しない

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

【現象】

次の条件を満たす場合、絞り込みの指定に沿わない余分なデータセット情報が出力されていました。

<発生条件>

- ・SDTSETm スイッチで比較演算子(*)を指定していない
- ・入力データ中に、途中まで同一のデータセット名が複数存在する
- ・データセット名の区切り位置(.)の前までが同一

<対象レポート>

- ・データセット情報レポート (SW02)

<例>

```
SDTASET1(1)= 'IIM.AU3LIB'  
SDTASET2(1)= ''  
SDTASET3(1)= ''  
SVOLUME (1)= 'IIM001'  
SDTACNT = 1
```

入力データに含まれるデータセット情報

```
IIM.AU3LIB  
IIM.AU3LIB.TEMP  
IIM.AU3X
```

出力されるデータセット情報

```
IIM.AU3LIB  
IIM.AU3LIB.TEMP <= 指定意図では対象外
```

【原因】

SDTSETm スイッチの処理に誤りがありました。

【対処】

指定意図に沿うように SDTSETm スイッチのロジックを修正しました。

CPEDBAMS

522-112. インターバル変更後の数値に誤り

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	●	—	—	

【現象】

次の条件を満たす場合、次の ES/1 シンボルによる数値を誤って出力していました。

<発生条件>

- ・ V05L21R3 以前でインターバル変更する

<対象シンボル>

- ・ SUSECMVS : このシステムイメージの総サービス量(定義値)。1時間当たりの MSU 値で表される。

<影響を受けるプロセッサ>

- ・ BOXWLC00
- ・ PNAVIGEC

【原因】

インターバル変更時の集計方法を取り違えていました。この値は最終インターバルの値で出力すべきでしたが、誤って各インターバルの数値を合計していました。

【対処】

インターバル変更時に最終インターバルの数値で出力するようにロジックを修正しました。

BOXWLC00

522-113. 配列インデックスエラー

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

【現象】

次の条件を満たす場合、配列インデックスエラーが発生していました。

<発生条件>

- ・ SMF レコードタイプ 70 において無効なシリアル番号が認識された

【原因】

入力の SMF レコードタイプ 70 に対して、該当するシリアル番号の SMF レコードタイプ 89 (使用度データ) が検出されない場合にインデックスエラーが発生していました。

マシン移行時インターバルなどでシリアル番号が無効(ゼロなど)となる場合があります。

【対処】

発生条件を満たす場合、警告メッセージを出力して該当レコードの次のレコードから処理を継続するように修正しました。

CPEDB200

522-114. 1分未満の SMF レコードへの対応

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項	
拡張	変更	不具合	—	—	●	DB2 V12.1 以降

DB2 V12.1 以降では、SMF レコードタイプ 100 と 102 のインターバルを 1 分未満に設定できます。これに対応し HHMMSS 形式で出力できるようにしました。追加スイッチを指定することで時刻表示が HHMM から HHMMSS 形式に変更されます。その他の項目の形式に変更はありません。

<対象レポート>

- ・ インターバル・サマリー・レポート (SW010)
- ・ バッファ・プール詳細レポート (SW021)
- ・ EDM プール利用状況レポート (SW030) (DB2 V10.1 以降用)
- ・ RID プール利用状況レポート (SW040)
- ・ SORT プール利用状況レポート (SW050)
- ・ ログ利用状況レポート (SW060)
- ・ ロック利用状況レポート (SW070) PRMF プロセッサ・レポート (SW072)

【追加スイッチ】

TIMESW

- TIMESW = 0 : 対象 DB2 バージョンが V11.1 までは HHMM 形式、V12.1 以降では HHMMSS 形式で出力 (省略値)
 = 1 : HHMMSS 形式で出力
 = 2 : HHMM 形式で出力

【指定例】

HHMMSS 形式で出力する。

TIMESW = 1

【インターバル・サマリー・レポート (SW04)】

HHMM 形式での出力

--BUFFER--		EDM POOL				--RID POOL--				--LOG BUFF--	--LOCK ACTIVITY--	
HHMM	POOL TOTAL	EDM	FAIL	DBD	FAIL	STMT	FAIL	USE	EXCEED	BUFFER	IRLM	SUSPND
	FULL DMTH	(%)	COUNT	(%)	COUNT	(%)	COUNT	(%)	COUNT	THRSLD	/SEC	/SEC
0901	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	0	0.00	0.00
0901	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	0	8.20	0.00
0902	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	0	0.00	0.00
0902	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	82	13.07	0.00
0903	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	0	0.00	0.00

HHMMSS 形式での出力

--BUFFER--		EDM POOL				--RID POOL--				--LOG BUFF--	--LOCK ACTIVITY--	
HHMMSS	POOL TOTAL	EDM	FAIL	DBD	FAIL	STMT	FAIL	USE	EXCEED	BUFFER	IRLM	SUSPND
	FULL DMTH	(%)	COUNT	(%)	COUNT	(%)	COUNT	(%)	COUNT	THRSLD	/SEC	/SEC
090129	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	0	0.00	0.00
090159	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	0	8.20	0.00
090229	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	0	0.00	0.00
090259	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	82	13.07	0.00
090329	0	0	0.00	0	0.42	0	0.00	0	0	0.00	0.00

【注意/制限事項】

- ・ TIMESW 指定は OUTDRTM=0 (もしくは省略値) で有効です。

522-115. OUTDRTM の指定に 1 分を追加

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更 不具合	—	—	—	DB2 V12.1 以降

DB2 V12.1 以降では、SMF レコードタイプ 100 と 102 のインターバルを 1 分未満に設定できます。これに対応し OUTDRTM スイッチにおいて指定できる値に 1 分を追加しました。

<対象レポート>

- ・ インターバル・サマリー・レポート (SW010)
- ・ バッファ・プール詳細レポート (SW021)
- ・ EDM プール利用状況レポート (SW030) (DB2 V10.1 以降用)
- ・ RID プール利用状況レポート (SW040)
- ・ SORT プール利用状況レポート (SW050)
- ・ ログ利用状況レポート (SW060)
- ・ ロック利用状況レポート (SW070) PRMF プロセッサ・レポート (SW072)

【対象スイッチ】

OUTDRTM

OUTDRTM = 0 : 入力されたデータのインターバルでレポートを作成する。(省略値)
 = 1/5/10/15/30/60
 : 指定した時間(分)に集約してレポートを作成する。

【指定例】

1分で集約する。

```
OUTDRTM = 1
```

【インターバル・サマリー・レポート(SW04)】 OUTDRTM=1

```
(C) I I M CORP. 1987-2024      EXPERT SYSTEM / ONE      ***** DB2 SYSTEM ANALYSIS REPORT *****      CPEDB200      6
PSW=SW010                      ----- DB2 SYSTEM INTERVAL SUMMARY REPORT -----      VER=05 LVL=22

--BUFFER-- ----- EDM POOL ----- --RID POOL-- --LOG BUFF-- --LOCK ACTIVITY--
HHMM POOL TOTAL   EDM FAIL   DBD FAIL   STMT FAIL   USE EXCEED   BUFFER   IRLM SUSPND
      FULL DMTH   (%) COUNT   (%) COUNT   (%) COUNT   (%) COUNT   THRSLD   /SEC   /SEC
0901   0   0  0.00   0  0.42   0  0.00   0 .....   0      4.10  0.00
0902   0   0  0.00   0  0.42   0  0.00   0 .....   82     6.53  0.00
0903   0   0  0.00   0  0.42   0  0.00   0 .....   0      4.12  0.00
```

522-116. DB2 V13.1 のサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	DB2 V13.1 以降

DB2 V13.1 に対応しました。

DB2TRC00

522-117. DB2 V13.1 のサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	DB2 V13.1 以降

DB2 V13.1 に対応しました。

JOBDSNCV

522-118. VSAM ポリリュームデータセットをサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	●	SMF レコードタイプ 60, 62, 64

VSAM ポリリュームデータセットのアクセス状況を CSV 出力できるようにしました。これによりアクセスしたジョブやユーザー名を追跡できるようにしました。また RACF ユーザに関してはその権限も分かります。加えて一部のレコードには総入出力回数も出力するようにしました。

【追加スイッチ】

SW60
SW62
SW64

SW60 = 0 : VSAM コンポーネントレコードの更新／挿入／削除に関する情報を CSV 出力しない(省略値)
 = 1 : VSAM コンポーネントレコードの更新／挿入／削除に関する情報を CSV 出力する

SW62 = 0 : VSAM コンポーネントの OPEN 情報を CSV 出力しない(省略値)
 = 1 : VSAM コンポーネントの OPEN 情報を CSV 出力する

SW64 = 0 : VSAM コンポーネントの CLOSE 情報を CSV 出力しない(省略値)
 = 1 : VSAM コンポーネントの CLOSE 情報を CSV 出力する

【指定例】

VSAM コンポーネントの OPEN 情報のみ CSV 出力する

SW60 = 0
SW62 = 1
SW64 = 0

【CSV 出力項目表】

レコード 60~64 の列と、項番 27~31 の行が追加。

		30	14	15	17	18	60	62	64
1	SYSID	○							
2	JOBNAME	○	○	○	○	○	○	○	○
3	JOBNUM	○							
4	CLS	○							
5	RDERDATE	○	○	○	○	○	○	○	○
6	RDERTIME	○	○	○	○	○	○	○	○
7	INITDATE	○							
8	INITTIME	○							
9	TERMDATE	○							
10	TERMTIME	○							
11	INITWAIT	○							
12	ELAPSTM	○							
13	CC	○							
14	RACFGRP	○							
15	RACFUSER	○							
21	STATUS		READ	WRITE	SCRATCH	RENAME	UPDATE /INSERT /DELETE	OPEN /INVAL ID	CLOSE /SWITCH /NOSPACE
22	VOLSER		○	○	○	○		○	○
23	DEVADR		○	○					○
24	UNITTYPE		○	○					
25	DSN1		○	○	○	○	○	○	○
26	DSN2					○			
27	VVDS						○		
28	TYPE						<種別>		
29	READRECS								○
30	WRITRECS								○
31	EXCPCNT		○	○					○

PNAVICEC

522-120. CSA/ECSA のキー毎の使用量を出力

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R5 以降

CSA/ECSA のキー毎の使用量を追加しました。これにより、z/OS V2R5 から追加された RUCSA の使用状況が把握できます。RUCSA は出力されるキーのうち、8-15 に割り当てられます。また、同時に CSA/ECSA サイズ (KB) も出力する為、キー毎の使用率 (%) も算出可能です。

【対象レコード】

【仮想記憶使用状況 (キー毎の容量)】レコード名 : VS_KEY

フィールド名	説明
CSASIZE	CSA サイズ (KB)
ALC_CSA_AVG	CSA 平均割り当て量 (KB)
USE_CSA_AVG	CSA 平均使用量 (KB)
CSA_KEY0_AVG	プロテクトキー0 の平均 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY1_AVG	プロテクトキー1 の平均 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY2_AVG	プロテクトキー2 の平均 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY3_AVG	プロテクトキー3 の平均 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY4_AVG	プロテクトキー4 の平均 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY5_AVG	プロテクトキー5 の平均 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY6_AVG	プロテクトキー6 の平均 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY7_AVG	プロテクトキー7 の平均 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY8_AVG	プロテクトキー8-F の平均 CSA サイズ (KB)
ECSASIZE	ECSA サイズ (KB)
ALC_ECDSA_AVG	ECDSA 平均割り当て量 (KB)
USE_ECDSA_AVG	ECDSA 平均使用量 (KB)
ECDSA_KEY0_AVG	プロテクトキー0 の平均 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY1_AVG	プロテクトキー1 の平均 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY2_AVG	プロテクトキー2 の平均 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY3_AVG	プロテクトキー3 の平均 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY4_AVG	プロテクトキー4 の平均 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY5_AVG	プロテクトキー5 の平均 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY6_AVG	プロテクトキー6 の平均 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY7_AVG	プロテクトキー7 の平均 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY8_AVG	プロテクトキー8-F の平均 ECDSA サイズ (KB)
CSA_KEY0_MAX	プロテクトキー0 の最大 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY1_MAX	プロテクトキー1 の最大 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY2_MAX	プロテクトキー2 の最大 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY3_MAX	プロテクトキー3 の最大 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY4_MAX	プロテクトキー4 の最大 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY5_MAX	プロテクトキー5 の最大 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY6_MAX	プロテクトキー6 の最大 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY7_MAX	プロテクトキー7 の最大 CSA サイズ (KB)
CSA_KEY8_MAX	プロテクトキー8-F の最大 CSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY0_MAX	プロテクトキー0 の最大 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY1_MAX	プロテクトキー1 の最大 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY2_MAX	プロテクトキー2 の最大 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY3_MAX	プロテクトキー3 の最大 ECDSA サイズ (KB)
ECDSA_KEY4_MAX	プロテクトキー4 の最大 ECDSA サイズ (KB)

ECSA_KEY5_MAX	プロテクトキー5の最大 ECSA サイズ (KB)
ECSA_KEY6_MAX	プロテクトキー6の最大 ECSA サイズ (KB)
ECSA_KEY7_MAX	プロテクトキー7の最大 ECSA サイズ (KB)
ECSA_KEY8_MAX	プロテクトキー8-Fの最大 ECSA サイズ (KB)

522-121. 暗号化コプロセッサ CEX8C の対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R5 以降

z16 で追加された新しい暗号化コプロセッサの種別「CEX8C」に対応しました。該当するデータを含む場合、次のレコードにて、従来は” UNKNOWN” と表示していましたが、本リリースより「CEX8C」と表示します。

<対象レコード>

【CRYPTO_COPROC】レコード名：暗号化コプロセッサ情報

フィールド名	説明
R7023CT	暗号化コプロセッサ種別

PNAVJOB1

522-124. 新しい分割レコード識別フラグのサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	z/OS V2R5 以降

SMF レコードタイプ 30 では次に続く残りセクション数などから分割レコードの識別をします。z/OS V2R5 から分割レコードに新規の識別フラグが追加されました。「%PNJOB OPT SCOPE=NO」を指定している場合、プロセッサ内でそのフラグを使用し分割レコードの識別をするようにしました。なお、「%PNJOB OPT SCOPE=YES」指定の場合は、CPESHELL プログラムで判別をします。

522-126. SCOPE=NO 指定時の SMF レコードタイプ 30 分割レコード処理に誤り

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	分割レコード

【現象】

次の条件を満たす場合、プロセッサ内の処理で分割レコードをすべて1つのジョブとして出力し、グラフ作成時に値が重複していました。

<発生条件>

- ・ SMF レコードタイプ 30 の分割レコードを入力
- ・ 分割レコードにおいて EXCP セクション数がゼロで、他のセクション数がゼロより大きい
- ・ %PNJOB OPT INPUT=SUMMARY, SCOPE=NO を指定

【対象レコード】

【JOB 詳細状況】	レコード名 : JOB_DTL
【JOB グループ状況】	レコード名 : JOB_GROUP
【JOB グループ資源使用状況】	レコード名 : JOB_GROUP_CPU

【原因】

プロセッサ内での分割レコードの処理に誤りがありました。

【対処】

EXCP セクション数以外に次の項目のセクション数も確認するようにロジックを修正しました。

[追加]

SMF30MOS	マルチシステム・エンクレーブ・リモート・システム・データ・セクションの数
SMF300PM	z/OS UNIX プロセス・セクションの数
SMF30RMS	自動再始動管理セクションの数
SMF30UDS	使用度データ・セクションの数

PNAVIDB2

522-127. 1分未満のSMFレコードへの対応

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	DB2 V12.1以降

DB2 V12以降では、SMFタイプ100と102のレコードインターバルを1分未満に設定できます。それに対応しHHMMSS形式のインターバル時刻項目を追加しました。

【追加項目】

フィールド名	説明
INTTIME	インターバル時刻(HHMMSS)

【対象レコード】

【DB2 統計情報】	レコード名：DB2STAT
【DB2 課金情報(1)】	レコード名：DB2ACC1
【DB2 課金情報(2)】	レコード名：DB2ACC2
【DB2 パッケージ情報】	レコード名：DB2PKG
【DB2 DDF(グローバル)】	レコード名：DB2_DDF_GBL
【DB2 DDF(ロケーション)】	レコード名：DB2_DDF_LOC
【DB2 サブシステム統計】	レコード名：DB2_SUBSYS
【DB2 ログ活動】	レコード名：DB2_LOG
【DB2SQL 統計】	レコード名：DB2_SQL
【DB2EDM プール(DB2 V10.1以降)】	レコード名：DB2_EDM
【DB2RID リスト処理】	レコード名：DB2_RID
【DB2 ロック活動】	レコード名：DB2_LOCK
【DB2 ソート/マージ活動】	レコード名：DB2_SORT
【DB2 バッファプール統計】	レコード名：DB2_BUF
【DB2 許可管理統計】	レコード名：DB2_AUTH

522-128. OUTDRTM の指定に 1 分を追加

分類		数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	DB2 V12.1 以降

DB2 V12.1 以降では、SMF レコードタイプ 100 と 102 のインターバルを 1 分未満に設定できます。それに対応し OUTDRTM スイッチで指定できる値に 1 分を追加しました。

【対象レコード】

【DB2 統計情報】	レコード名：DB2STAT
【DB2 課金情報(1)】	レコード名：DB2ACC1
【DB2 課金情報(2)】	レコード名：DB2ACC2
【DB2 パッケージ情報】	レコード名：DB2PKG
【DB2 DDF(グローバル)】	レコード名：DB2_DDF_GBL
【DB2 DDF(ロケーション)】	レコード名：DB2_DDF_LOC
【DB2 サブシステム統計】	レコード名：DB2_SUBSYS
【DB2 ログ活動】	レコード名：DB2_LOG
【DB2SQL 統計】	レコード名：DB2_SQL
【DB2EDM プール(DB2 V10.1 以降)】	レコード名：DB2_EDM
【DB2RID リスト処理】	レコード名：DB2_RID
【DB2 ロック活動】	レコード名：DB2_LOCK
【DB2 ソート/マージ活動】	レコード名：DB2_SORT
【DB2 バッファプール統計】	レコード名：DB2_BUF
【DB2 許可管理統計】	レコード名：DB2_AUTH

【対象スイッチ】

OUTDRTM

- OUTDRTM なし : 1 分に集約したフラットファイルを作成する。(省略値)
 = 0 : 入力されたデータのインターバルでフラットファイルを作成する。
 = 1/5/10/15/30/60 : 指定した時間(分)に集約したフラットファイルを作成する。

【指定例】

1 分で集約する。

OUTDRTM = 1

【注意/制限事項】

- OUTDRTM=1 の指定を追加するにあたり、OUTDRTM を指定していない場合の動作(省略値)を以下の通り変更しています。
その為、バージョンアップによって出カインターバルが変わる場合がありますのでご注意ください。

※1 分未満のインターバルのデータを入力した場合の例

OUTDRTM の指定	V05L21R3 の出カインターバル	V05L22R1 の出カインターバル
指定なし(省略値)	OUTDRTM=0 として動作 (入力データのインターバル。 ただし 1 分未満のデータの場合 は 1 分に集約する)	OUTDRTM=1 として動作 (1 分インターバル)
0	入力データのインターバル。 ただし 1 分未満のデータの場合 は 1 分に集約する。	入力データのインターバル。 1 分未満のデータでもそのイン ターバルで出力する。
1	指定不可	1 分インターバル
5, 10, 15, 30	指定したインターバル	指定したインターバル

522-129. DB2 V13.1 のサポート

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	DB2 V13.1 以降

DB2 V13.1 に対応しました。

BOXWLC00

522-130. 配列インデックスエラー

分類			数値変更	表示変更	スイッチ追加	特記事項
拡張	変更	不具合	—	—	—	

【現象】

次の条件を満たす場合、配列インデックスエラーが発生していました。

<発生条件>

- ・ SMF レコードタイプ 70 において無効なシリアル番号が認識された

【原因】

入力の SMF レコードタイプ 70 に対して、該当するシリアル番号の SMF レコードタイプ 89 (使用度データ) が検出されない場合にインデックスエラーが発生していました。

マシン移行時インターバルなどでシリアル番号が無効(ゼロなど)となる場合があります。

【対処】

発生条件を満たす場合、警告メッセージを出力して該当レコードの次のレコードから処理を継続するように修正しました。

【PC】機能一覧 プログラム別

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	Microsoft®365 Apps環境への対応	25	522-151
	不具合	2	Excelグラフが削除されない	26	522-152

【PC】機能一覧 カテゴリ別

拡張一覧

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	拡張	1	Microsoft®365 Apps環境への対応	25	522-151

不具合一覧

プログラム	分類	項番	項目	参照ページ	記事番号
Performance Navigator	不具合	1	Excelグラフが削除されない	26	522-152

Performance Navigator(拡張)

522-151. Microsoft®365 Apps 環境への対応

Microsoft®365 Apps に対応しました。対象となる更新チャンネルは次の通りです。

<更新チャンネル>

チャンネル	バージョン	ビルド	サービス開始日	サービス終了日
半期エンタープライズチャンネル	2208	15601.20456	2023/1/10	2024/3/12
	2302	16130.20694	2023/7/11	2024/9/10
	2308	16731.20504	2024/1/9	2025/3/11

Performance Navigator(不具合)

522-152. Excel グラフが削除されない

【現象】

報告書テンプレートの設定で HTML 形式の報告書のみが選択されている場合、Excel グラフファイル(.xlsx)と Word 報告書ファイル(.docx)は不要です。その為 HTML 形式の報告書と Gif イメージ形式グラフの作成が終了したらファイルを削除します。しかし次の条件を満たす場合、本来削除されるべき Excel グラフが削除されずに残り続けていました。

<発生条件>

- ・ 抽出結果が 0 件などの理由で作成されなかったグラフがある
- ・ 「グラフ作成処理失敗時も処理を続行する」オプションが有効になっている

<発生条件時の挙動例>

- ・ テンプレート登録済み 100 グラフのうち 50 グラフ目が作成に失敗している場合、1~49 のグラフファイルは削除されるが、51~100 のグラフファイルが残る

【原因】

プログラムのロジックミスです。

【対処】

グラフファイルの削除を最後まで実施するようにしました。グラフ作成失敗時に続行する設定となっている場合は、失敗したグラフのファイルがダミーで生成されますが、こちらも削除されます。